

北条以前 大森氏一わからないこと、知りたいな



(小田原史談会+有志)

口上

この度、われら小田原史談会と有志は、「北条以前」について発表いたします。その具体的な内容としては「大森氏一わからないこと、知りたいな」というもので、決して難しいものではありません。

しかしながら、相模大森氏については資料が乏しく、参考にできる考察もあまりありません。そのあたりは、われらの僅かの知性と貧弱な想像力で補う他はありませんでした。

出来上がりについては自信があります（？）が、繰り返しますがなにせ資料が少なく、決定的なことを述べることができません。また、発表のなかに「仮説」（思い付き）があればそれは担当者個人の意見であります。

ここで皆様に提示して、ご意見を今後の研究の糧にしたいと存じます。

以上

【大森氏とは】

大森氏は、15世紀の初め頃に、駿河から来て西相模を支配した武士集団です。

大森氏には憲頼と氏頼の2つの系統があって、有名なのは氏頼（寄栖庵）系です。

大森氏は、16世紀の初頭に、早雲によって小田原を追われました。

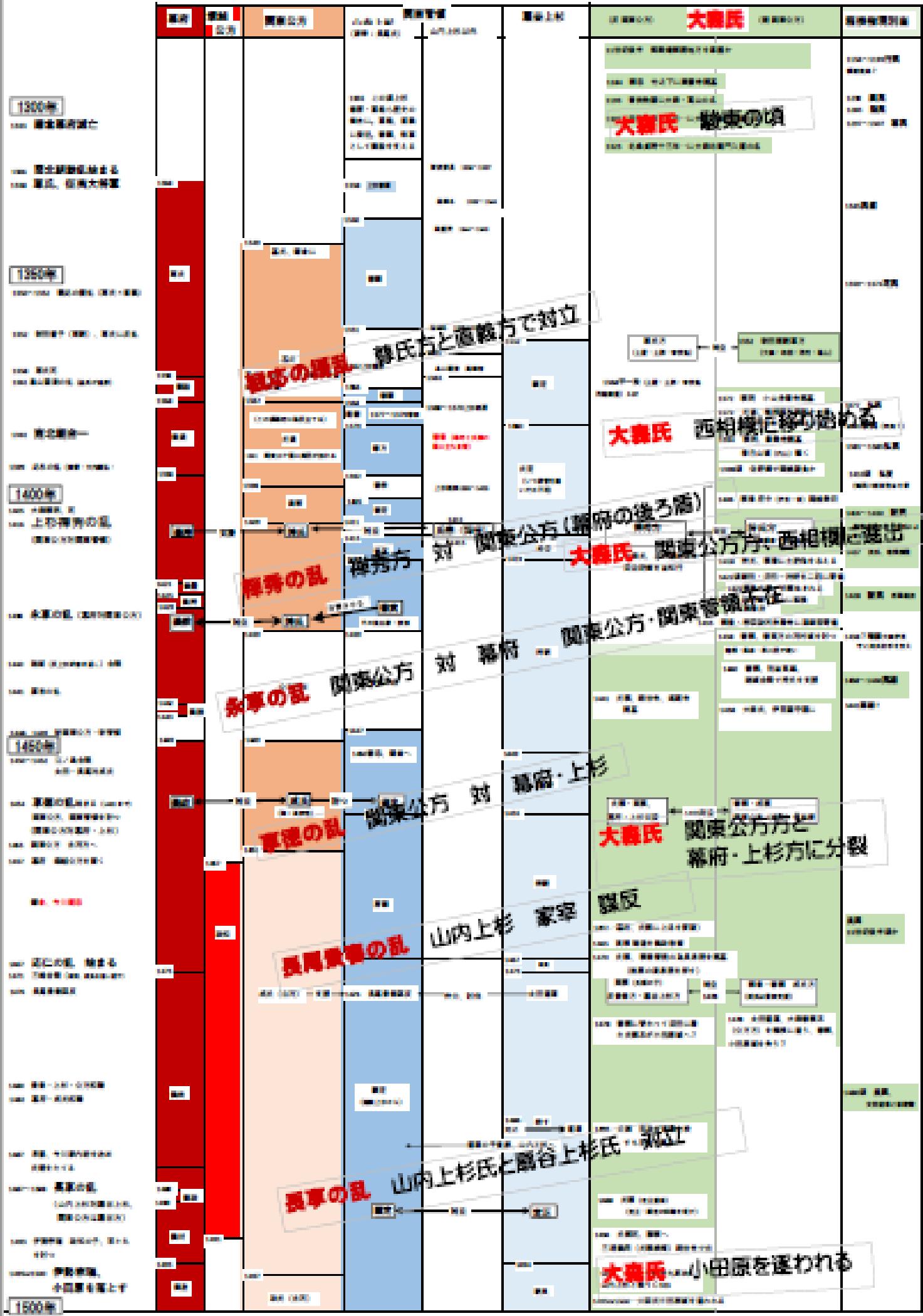
【わからないこと・知りたいこと】

- (1) 大森氏が活躍した時代は？
- (2) 当時の西相模の武士団や莊園は？
- (3) 上杉禪秀の乱で、なぜ土肥・土屋氏は禪秀方についたのか？
- (4) 大森氏はなぜ西相模に来たのか？
- (5) 大森氏が西相模に来たルートは？
- (6) 大森氏と寺社の関係は？
- (7) 大森氏の小田原城はどのような姿だったのか？

【それはこういうことでしょうか】

- (1) 関東も動乱の時代だった！
- (2) 西相模には中小の武士団・莊園が入り乱れていた！
- (3) 諸説あります…。
- (4) これも諸説あります…。
- (5) ルートは2つ…。
- (6) 大森氏は…。
- (7) それは砦（詰めの城）であって“お城”ではなかった。

大森氏関連年表



(2) 相模武士団

- ・大化改新後、関東は「武射国」⇒「相模国」と「武藏国」に分けられた
武射国 → 武射上国(ムサカミ) → サカミ 相模国 8郡
→ 武射下国(ムサシモ) → ムサシ 武藏国 21郡
- ・相模国：8郡（足上、足下、余綾、大住、愛甲、高座、鎌倉、三浦）
山稜平野部（足上郡・大住郡・高座郡）から開発が進み、
やがて足下郡・余綾郡・鎌倉郡・三浦郡に広がっていく。
- ・武士団の分布も北部から南部に始まった。武藏と系図上同祖のルーツ多い。
北部：秀郷流藤原氏 …… 波多野氏、松田氏、河村氏
武藏七党の横山党 …… 海老名氏、土屋氏、愛甲氏
南部：桓武平氏(良文・良兼流平氏、貞盛流平氏)
… 中村氏、土肥氏、土屋氏、二宮氏、三浦氏
渋谷氏、大庭氏、梶原氏、長尾氏(戸塚)

- 2
- ・鎌倉の権力が強く、成長・拡大の阻害となったので、
鎌倉・室町時代に東遷・西遷する武士団が多く出た。
奥羽へ 曽我氏(津軽)、佐原(蘆名)氏(会津)、和田氏(越後)
鎮西へ 大友氏・渋谷氏、
山陽/山陰へ 土肥(小早川)氏、毛利氏

- ・1200～1400年頃の相模国主力武士
三浦氏(三浦半島南部)、渋谷氏(高座郡)、海老名氏(高座郡)
本間氏(愛甲郡依知郷)、波多野氏(一門の松田氏、河村氏)、
中村一族(土屋氏、二宮氏、中村氏、土肥氏、小早川氏)、曾我氏
・地方武士の所領は、多くの荘園と入り乱れていた。
・三浦氏(平安時代末以来の雄族)は、相模守護になったが、
相模西部への権限行使は弱かった。戦国大名にも転身しきれなかった。

西相模武士団勢力図
(1400年頃推定)



* 上杉禪秀の乱1416

上杉禪秀(氏憲；大懸家)：足利満隆、曾我氏、中村氏、
土肥氏、土屋氏、河村氏、(松田氏?)

VS
足利持氏(鎌倉公方) : 上杉憲基(関東管領；山内家)、三浦氏、

將軍・足柄義持は持氏を支援。今川氏軍勢が相模に攻め込み持氏勝利
葛山、荒川、大森、瀬名氏は、足柄山を越え、曾我、中村氏を討つ
朝比奈、三浦氏他は、箱根山を越え、土肥、土屋、中村、岡崎氏を討つ
⇒ 土肥、土屋氏の所領没収 → 大森氏が持領。曾我・中村は削減
⇒ 大森氏は小田原を拠点とする。
黒谷上杉氏の被官として勢力を拡大。三浦氏と並んで相模武士団の柱となる。



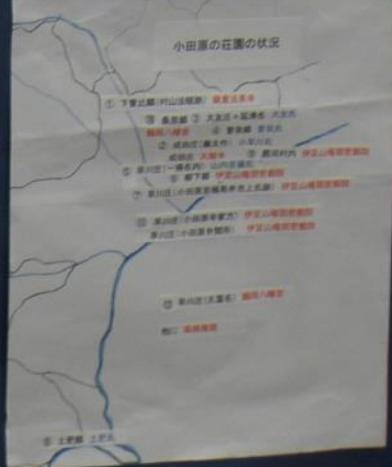
西相模の荘園地図
(上杉禪秀の乱以前=15世紀初頭前後)

○神秀の乱(永永23年(1420)10月一更牛(月))は相模の西相模において、今朝であらかじめで負け、お把長源は崩れ、しかも敗北者逃走はなかった。お首を取られないと東氏は式による威嚇。村郷が持っていた。

西相模には大きな城砦ではなく、また當時すでに西相模地域に城柵の存在(御料所)がかなりあって、城柵全体を統一するような支配はなされていなかった。

○神秀の乱の後、大森氏は神秀だった「土肥、土屋」に変わつて西相模地域の支配を確められた。しかし、大森氏が自分の全城を失敗できたというものではなく、城柵周辺をはじめとして他の勢力(特に今朝)による支配もなされていた。

大森氏の「え配」といっても、奥庭え名のような複数を支配するものではなかった。城柵の守備・維持の人、城柵の修理などは連携することによってえ配力・經營力を握るという、「自興制」の風潮(?)がまだ残っていた。



わからないこと・知りたいこと 3

上杉禪秀の乱で、なぜ土肥・土屋氏は禪秀方についたか？

A説 鎌倉公方に対する不満説

- 理由① 不満は、鎌倉公方の権力が西相模に直接浸透してきたことで募っていた。
- ② 具体的には、御料所（鎌倉公方の直轄地）や祈願所が西相模に設置されてきた。
- ③ また、西相模の中小武士団に対して、種々の名目の負担を増やしてきた。



B説 上杉禪秀への協調説

- 理由① 当時、関東管領の上杉禪秀の勢力が強かった。
- ② 上杉禪秀は、土肥・土屋氏をはじめとする中小の在地領主の側に立っていた。

C説 土肥・土屋氏のプライド説

- 理由① 土肥・土屋氏は鎌倉以来の地頭職で、足利氏と同じく鎌倉幕府の御家人だったから、プライドがあった。
- ② それだけにまた、勢力を挽回しようという魂胆があった。



わからないこと・知りたいこと 4 【大森氏はなぜ西相模に来たのか?】

《消極的見方》



スカウト説

○スカウトされたんだよ。鎌倉公方の持氏に「大森よ、こっちへ来いよ」と言われたからです。

←戦功の恩賞に「土肥・土屋の跡」をもらったんです。はじめから欲しかったわけじゃないから。

←西相模へ入ってきて戦いをしたということはなかったし・・・。

押し出され説

○駿河に今川、甲斐に武田が構えている。これらの勢力との争いを避けて、こちらへやってきた。

○葛山氏は駿東に残って、大森氏は東へ向かうしかなかったのだ。



《積極的見方》

隙あらば説

○大森氏は西相模を、「隙あらば」と狙っていたのです。禅秀の乱は千載一遇のチャンスだった。

←西相模には大きな豪族はなく、中小の武士団がウジャウジャいるだけだったから。

←箱根にまで来て、関所の管理を任されているし・・・。

鎌倉あこがれ説

○大森氏は、駿東にくすぶっているんじゃないなくて、武士の都だった鎌倉に近いところへ出て来たかったのです。



ミックス説

○駿東から見れば「退避」相模で見れば「進出」。

きっかけはなんとも言えないが、大森氏にとってみれば新天地だった。

青木良一

大森氏の西相模進出ルート

5



大森氏の宗教政策

～箱根権現・最乗寺～

○ 大森氏と箱根権現

* 関東公方は、箱根水飲問所よりその路の脇にある伊豆国府に門を設けた方がより効果的として、問所の場所を変えさせた。

* この門の設置を請け負ったのが、相模進出を狙っていた大森頼春であり、これを機に府中から箱根一帯の実質的な支配権を歴承13年（1400）頃までに確立。

* それ以降、箱根権現別当に兄弟を歴けることになる。



○ 最乗寺の開創

* 大森（頼明）は西相模進出開点として、大雄山最乗寺の開創を高僧の了庵禅師に依頼。その基地として、駿河出身者開基の極楽寺を提供した。

* 大森頼明は、宝子の誕実を箱根権現、および（安室）宗権を大雄山に入れることで、両所の相模進出の開点化を図ったものと思われる。



○ 極楽寺の伝承

極楽寺：1344年開創　仏満禪師法脈（今川義氏の第三子）

一極楽寺は今川氏（大森氏）の相模進出の前哨拠点。

* 了庵禅師が笠置寺にいたとき、一羽の鸕が飛び来て、禅師を現在の大雄山の地に導いたという説話は、今川・大森・極楽寺からの説であると解釈できる。

* 禅師が大雄山を開創するや、矢倉沢、駿沢の尚明神が来て力を助け、箱根権現が老翁と化して御願を受けたという伝承があるが、これも、今川・大森の前哨拠点が、箱根、矢倉沢、駿沢にあったと解釈できる。



7. 大森氏と“お城” 一大森氏の“小田原城”はどのような姿だったのかー

v.3.2
宮原勝二

日常的に戦乱状態になっていた15世紀の初め、箱根山の西麓、駿東の地に居住していた大森氏が箱根を越えて小田原の地を支配し、北条早雲と交代するまでのおよそ80年間の間に、大森氏は小田原を含む箱根山麓の足柄上下郡地域だけでも9カ所という実に多くの“お城”を作ってきた(注)。その中でも気になるのはやはり“小田原城”。どのような“お城”だったのか。

(注) 小田原城・岩原城・沼田城・矢倉沢城・春日山城・浜居塙城・湯坂城・進士ヶ城・土肥城

葛山城の話

裾野市葛山



【状況】: 14世紀の大森氏の駿東時代の“お城”は残っていない。しかし大森氏の一族であり、14世紀末に伊勢宗瑞(早雲)の次男氏時を養子にもらう事になる葛山氏の“お城”は残っている。それは山上にある戦時の「詰めの城」、つまり砦のような施設と、麓にある平時の「居館」とのセット。この形式は室町時代末期の世情の混乱期から始まる“お城”的典型的な姿であり、他の地域でも見られ、戦国時代まで続いた。

葛山城

戦時に防衛する「詰めの城」。葛山城はこの他に愛鷹山中に隠村(葛山古戸城)をもっていた。

距離: 約800m
葛山館: 平時に生活する「居館」



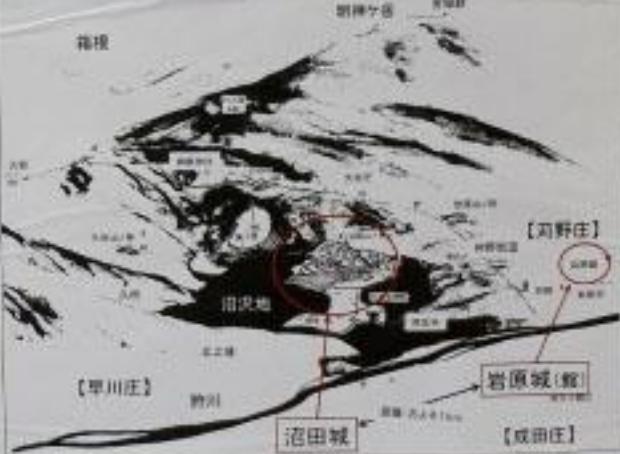
沼田城と岩原城の話

南足柄市沼田・岩原



【経緯】: 沼田城は12~13世紀頃に波多野一族の沼田氏の居館に始まる。200年ほど後、大森氏は「上杉禪秀の乱」によって得たその館を城塞に拡張した。沼田城から約1kmほど離れた岩原城はその後に造られた。

【仮説】: 大森氏はなぜすぐ近くに二つも“お城”を作ったのか。沼田城は、箱根および小田原からの交通路の要所にあり、沼沢地に囲まれたほぼ独立した山上にあり、岩原城にくらべ明らかに地政学的に優位にある。大森氏は岩原城を平時の「居館」機能として利用し、沼田城は戦時の「詰めの城」および小田原北方の防備の要として利用していたのであろう。



小田原城の話

小田原市城山



【状況】: 小田原城の発祥は遺構調査によても不明。築城が1456年との資料(「鎌倉大草紙」)も実在かどうかわからぬ。“お城”と言えば、高い石垣と水堀で囲まれ、城主が居住する単一の“お城”をイメージする。が、これは江戸時代に確立されたもの。15世紀初めの大森氏の“小田原城”はく低地の「居館」+山上の「詰めの城」のセットであったはず。

【仮説】: 大森氏に関連する古地名の分布から推定し、祭祀遺構があり「御前曲輪」として字名で残っていた現在の城山は陸上競技場の付近を大森時代の「居館」位置の可能性があるとする説(「小田原市史」)を信じたい。すると「詰めの城」は山上の遺構としてもっとも古い八幡山の古郭の一郭(小田原高校付近)の可能性が高いのではないかと思われる。

「居館」の位置
道標: 御前曲輪
陸上競技場付近
距離: およそ500m

距離: およそ500m

「詰めの城」の位置
道標: 八幡山古郭
小田原高校付近

